

田川活性化プロジェクト

— 昼は楽しく夜も明るい文化・創造都市宇都宮 —

宇都宮市創造都市研究センター アントレプレナー研究グループ 作新学院大学 経営学部 経営学科 3年
安野巧真 (やすの たくま)、中野文華、
宇梶宏海、菊地円樺 (宇都宮共和大学2年)、碓氷瑞樹 (文星芸術大学2年)

【概要】 本プロジェクトは、栃木県の顔である JR 宇都宮駅西口周辺の活性化を目的とした実践活動である。そこで利活用に乏しい田川を利用し、地域を巻き込みながら様々な事業を展開している。具体的には、宇都宮空襲の追悼ライブにはじまり、遊歩道に堆積した 8t に及ぶ砂の除去作業、映画鑑賞会、映画の自主制作、マルシェ、そしてイルミネーションの設置など、資源の発掘と利活用を実施し、計画している。また諸活動の中で、次年度に開催が予定されている栃木国体の PR も行い、田川から栃木県全体を盛り上げる。当事業で実施された先進的な事業が県内に波及することを期待している。

【栃木を元気にするには】 JR 宇都宮駅は、県都宇都宮の玄関口であると同時に、本県の顔である。多くの来訪者は当駅を利用するが、駅前地域の印象が変われば栃木県に対するイメージも高まること期待できる。また、県民の地元への誇りや愛着を高めることにつながる。本事業は、栃木県の顔をより魅力的にし、栃木の元気な発展を視野に、世界中に栃木の魅力を伝える一大事業と位置付けていく。

1. 活動の背景・目的

本プロジェクトは、宇都宮市内4大学（作新学院大学・宇都宮共和大学・帝京大学宇都宮キャンパス・文星芸術大学）と宇都宮市、企業、NPO 等によって構成されるプラットフォーム「宇都宮市創造都市研究センター」の4大学連携ゼミである。2021年3月から5月まで宇都宮市内の各地域の視察や様々な団体、個人との意見交換、文献調査（遠藤ほか、2019）などを通し、JR 宇都宮駅西口周辺において、景観問題や交通問題、公的な賑わい空間の欠如、再開発問題、LRT の西口延伸問題など、様々な問題や課題を抱えていることを知った。

一方で、かつて田川には屋台が並び、花火大会開催や貸しボートなど、憩いの場として賑わっていた（聞き取り調査より）。そこで私たちは、地域住民や企業、NPO 等と連携し、田川をかつてのような県民が集う賑わい空間を創出し、栃木県の顔である JR 宇都宮駅西口から栃木県の活性化を目指す。

2. JR 宇都宮駅西口周辺および田川周辺の現状と課題

当地区課題としてあげられるのは、利活用しきれていない公共空間が多いという点である。特に田川沿いの歩道・田川河川敷は幅 4~8mあり、アイデアややり方次第では十分活用できる。ところが、現時点では単に散歩道としてしか利用されていないし、歩行者もまばらである。すなわち、駅前という一等地にありながら、市民の憩いの場としてほとんど機能していない。このままでは JR 宇都宮駅東口の再開発が進む一方で、JR によって東口と西口、東武宇都宮駅周辺エリアが分断され、回遊性低下や都市機能が分散され、宇都宮市が進めるコンパクトシティ推進の妨げにもなる。田川の広大な公共空間が利活用されることで、宇都宮駅東口 ⇄ 西口 ⇄ 田川 ⇄ バンパ ⇄ 東武宇都宮駅周辺、が結ばれ、人の回遊性が生まれるとともに、中心市街地の魅力向上、人口増加にも結び付くと考えている。

3. プロジェクトの概要

3月から5月は、視察やヒアリング調査、様々な主体との意見交換などを通して、プロジェクトの方向性を決めていった（表1）。6月に栃木県より60万円の競争的資金を取得したことから、7月12日に宇都宮空襲の追悼ライブを実施した（写真1）。イベントを計画していた田川遊歩道沿いの環境整備

のため7月18日に約70人で砂を除去（計8tの砂を処分）した（写真2）。砂の除去作業では、すべての砂を除去できなかったことから、幸橋下に残された砂の利活用を模索した。その結果、写真3のように川の中心付近橋脚にプロジェクターにより映画を投影するイベントを10月2日に開催した（10月に3回開催）。このイベントの特徴は、河川敷の新たな利用法（日本初）を提示したこと、砂除去作業で残った砂の利活用（土嚢を座席にした）、さらには専門家の支援を受けながら、学生たちの手で、自主制作映画（宇都宮空襲に関するドキュメンタリー映画）を制作、上映したことである。コロナ対策により完全予約制とし、マスコミや関係者合わせ約50名が参加した。またNHKや新聞各社が取材に訪れた。

表1 田川活性化プロジェクトの事業（計画を含む）

年度	月	事業名	連携・関連団体・企業	報道の有無
2020年度	9	ゼミキックオフイベント	宇都宮市産業政策課、NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク、㈱エンターテイン	下野新聞、日経新聞
	3	宇都宮市東部地域の視察	宇都宮酒造、清原工業団地総合管理協会	なし
	4	宇都宮駅西口周辺の視察	—	なし
2021年度	4-5	宇都宮駅西口周辺住民、事業者等への聞き取り調査	宇都宮市地域政策室、JR宇都宮駅西口地区まちづくり協議会、西口ビル管理㈱、NPO法人まちづくり推進機構、小袋町自治会	なし
	6	栃木県「大学地域連携活動支援事業」採択	栃木県総合政策部	なし
		宇都宮空襲追悼ライブ「宵待ち灯ろう」の実施（7/12）	宮灯路プロジェクト、宇都宮共和大学西山ゼミ、とちぎの空襲・戦災を語り継ぐ会	NHK、下野新聞、読売新聞
	7	田川遊歩道の砂除去活動	JR宇都宮駅西口地区まちづくり協議会、西口ビル管理㈱、NPO法人まちづくり推進機構、築瀬地区連合自治会、宇都宮建設業協会、宇都宮土木事務所	下野新聞
	8-9	ドキュメンタリー映画『宇都宮空襲～未来の平和のために語り継ごう～』の制作、完成	鈴木智（映画監督）、とちぎの空襲・戦災を語り継ぐ会、BeatclubUtsunomiya、伊東写真館、宮のかたりべ、ピースうつのみや、和灯屋	NHK、下野新聞、読売新聞、産経新聞、朝日新聞
	10	映画鑑賞会「田川ブリッジシアター」の開催（10/2、16、30）	西口ビル管理㈱、NPO法人まちづくり推進機構、築瀬地区連合自治会、Cafe&Grill Bio Sketch、BeatclubUtsunomiya、宇都宮土木事務所	NHK、下野新聞、読売新聞、産経新聞、朝日新聞
	11	田川マルシェ&音楽ライブ「ヒラクをカタチに学店gakuten～学祭を超えた学生ショップ～」の開催（11/6）	西口ビル管理㈱、NPO法人まちづくり推進機構、築瀬地区連合自治会、栃木県河川課、宇都宮土木事務所、宇都宮市国体局、宇都宮短期大学附属高等学校	未定
	田川イルミネーション	若山農場、大谷石材協同組合、㈱ちかけんプロダクツ、和灯屋、宇都宮共和大学西山ゼミ	未定	



写真1 宵待ち灯ろう（メンバーが演奏）

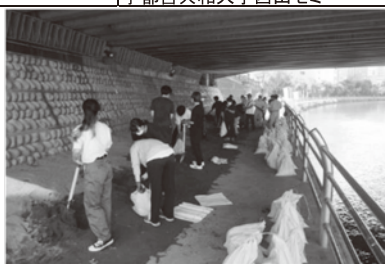


写真2 田川美化活動



写真3 田川ブリッジシアター

11月には、市内の高校生と大学生の連携学校祭「ヒラクをカタチに学店」を開催する。これは市内の高校生、大学生のチャレンジショップという位置づけで行われ、15のブースが遊歩道沿いに出店予定である。なお河川敷に出店ブースがならぶ事業は栃木県において前例がなく、河川の有効活用のパイロットケースとなる。また国体に関連したブースも開設する。その他、11月末から1月にかけて遊歩道沿いに竹あかり（竹灯籠）を計150本並べ、イルミネーションを実施し、賑わいづくりを創出する。

4. 栃木に新たな発想、伊吹をもたらす学生パワー

本事業の特徴は、すでにある資源を、誰も思いつかなかったような方法で、短期間に連続的に実践したことにあると考えている。さらに地元住民や行政、企業、NPO、クリエイターなど様々な主体と連携し、相互に好影響を与えあいながら地域イノベーションを達成したことも大きな成果であった。これはすなわち学生パワーの賜物といえよう。今後は、これらの活動を引き継ぎ、持続的に事業を実施していくと同時に、行政などにも規制の緩和や事業化（予算化）について働きかけを行っていききたい。

【参考文献】

遠藤陸・猿山凌・渋井沙樹・築島春菜（2019）宇都宮西口大改造計画一目でみてわかる宇都宮一まちづくり提案集 2019, pp89-98.